

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390100135		
法人名	安心生活株式会社		
事業所名	あんしんせいかつ香流		
所在地	愛知県名古屋千種区香流一丁目2番1号		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成27年10月26日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=2390100135-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26番地 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成27年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症で悪性腫瘍にかかっている方はホスピスも行けない、施設にも行けない、在宅にしか行き場がないのが実情です。一方で、在宅で認知症の方を見切れないケースがあることも事実です。このグループホームでは、認知症＋悪性腫瘍に罹患した利用者さんを積極的に受けることにより、上記の悩みを解決することを目的として設立しています。介護の必要な認知症で、悪性腫瘍のある方や医療処置の必要な方を含めて、共同生活住居において、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、入浴、排泄、食事等の介護その他の日常生活上の世話を行なうことにより利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営み、安らかに最期を迎えることができるように支援します。その支援には医療体制のバックアップが不可欠であることから、代表が院長を務めるクリニックと連携し、医師・看護師・ケアスタッフによるチーム医療を推進いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表が医師である利点を活かして医療依存度の高い利用者や終末期にも対応できるチーム医療体制が築けている。利用者の状態や状況に応じた専門職による早急な対応が利用者や家族の安心に繋がっており、家族からは医療面についてのサポートが充実して安心できるとの声が聞かれる良好な関係ができている。家族や地域の人が気軽に訪問できる開放的でアットホームな雰囲気づくり、利用者の楽しみごとや笑顔につながるように畑作りやピザ作り等のレクリエーションにも積極的に取り組んでいる。昨年の課題であった地域とのつきあいや運営推進会議開催も改善されている。定期的な内部研修や経験に応じた外部研修を受けることもでき、職員の介護に対する思いとサービスの質の向上が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「医療・介護・住まい・保育を通じて安心を」「尊厳を守る」を理念に、地域密着型のサービスを重視している。ミーティングで理念について話し合って意見の統一化を図っている。	入社時に代表から理念についての説明を受けたり、折に触れ理念を再確認する機会を持つことで、職員が理念を念頭において職務に取り組めるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所内の地域交流スペースにて、月に2回ふれあいサロンを開催して地域・入居者様と交流の場を設けている。	町内会に加入しており、散歩時に挨拶を交わしたり地域行事にも参加している。年度末の町内会の会合に参加予定である。地域との交流の場となる「ふれあいサロン」を開催して地域にも開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践内容を踏まえ、外部の研修や会合で認知症ケアについてスキルアップを図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議を開催し、前回の検討事項等についてその経過を話し合って解決するようにしている。また現在取り組んでいることや方向性についても報告し、意見をいただくようにしている。	年6回開催している。いきいき支援センター職員や町内会長の参加もあり、ホームの活動報告や入居情報などの意見交換を行っている。行政や地域からの情報や助言がサービスの質の向上に繋がる機会となっている。	家族の参加が増えるように、家族に送付する毎月のお便り等で開催をお知らせすることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会等、市の担当者様との連絡や面談をしながら利用者様の日常生活の様子や状況を伝えるように努めている。また市主催の研修会にも参加するようにしている。	生活保護課や介護保険課と連携を図り、利用者やサービスに関する相談や疑問点などの助言を貰っている。市町村開催の研修や認知症の研修に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ対策マニュアルを職員に徹底し、利用者様に安心して日々の暮らしをしてもらうよう見守りに努めている。	身体拘束について職員の意識改革をする事で、利用者の尊厳を大切にされた対応を心掛けている。命の危険が伴い身体拘束が必要な場合は、利用者の過去歴を踏まえ家族と相談をした上で、利用者にとって負担のない方法で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員への説明を行なっている。対応が必要だと思われる利用者様がいる場合に、職員に説明してアドバイスをしながら利用者様を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧に説明をしている。重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制のみならず、退去を含めた事業所の対応可能な範囲についても説明し納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には電話・訪問時・連絡ノート等で、意見や要望を聞く努力をしながら普段からの声かけや場作りにも注意している。また出された意見や要望にもできる限り速やかに改善するようこころ掛けている。	訪問時の雑談や毎月の無記名アンケートで本音が話してもらえるように取り組んでいる。出された意見や要望は速やかな対応や改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時個別面談を行なって、相談や意見を聞くようにしている。日ごろからコミュニケーションを取りながら何でも相談しやすい雰囲気作りになっている。	職員アンケートや面談の機会を定期的に行なうことで、職員も意見や要望が出しやすく反映もされている。管理者や主任は職員の顔色や様子から察して対応し、不満解消して気持ちよく仕事ができるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に顔を出し、利用者様と過ごしたり職員にも声かけをしている。またお悩み相談室を設け、悩み事や相談を随時受付けている。職員の資格取得に向けた支援も行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内でカンファレンスを行ない、職員の段階に応じて多くの職員が参加できる体制を整えている。また事業所外での研修にも参加してもらう体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者自らが医師であることから、愛知県グループホーム協議会と協働で医療カンファレンスを各月で開催、関連事業所と交流をもったり学習会を持つことによってサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で、日常生活の様子を把握するように努めている。サービスの利用について相談があった時は、ご本人様の状態や思いを考慮して提供するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望やこれまで苦労されたことなどの経緯をしっかりと聞くように努めている。事業所として何ができるかを考え、サービス向上につなげていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟に対応し、改善に向けた支援の提案をしている。相談をしていく中で信頼関係を築き、他のサービスの利用に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや不安に思っていることを聞くことに努め、日常の生活の中でお互い分かち合って支えながら暮らせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフはご家族様の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づいたこと等の情報を共有することに努め、ご本人と一緒に支えるためにご家族様と同じ思いでケアをしていることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的にサロンを開放して、知人や友人とも交流ができるよう努めている。また近隣に外出するなどして地域の方々との新しい交友や継続的な関係を続けられるようサポートしている。	利用者の大切な繋がりが継続できる支援を行っている。馴染みの接骨院や公園散策、家族とは喫茶店やお墓参りに出かけている。知人や親戚がホームに遊びに来たり、手紙でのやりとりを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に利用者様の話を聴いたり相談に乗るなど、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う利用者様同士で過ごせる場作りをするなど相互に良好な関係が築けるよう、スタッフが支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りにより契約が終了しても、これまでの故人とご家族様の関係性を考慮して、ご遺族の立場に立ったグリーンケア・ターミナルケアを行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の日常生活の中で状況把握に努め、その気づいた事を記録に残して職員同士で情報の共有化に努めている。また利用者様の話し方や表情を観察することで真意を汲み取る努力を怠らない。	利用者の日常生活の中で一人ひとりの意向や思いを知るように心がけている。その気づきを個人ノートに記録し職員同志で情報の共有をしている。訴えが自らできない場合は声かけをして、表情を観察し真意を汲み取るように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴を把握することの重要性を理解し、ご家族様からの協力を得ながら普段の生活や個性、価値観の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用様の生活スタイルを理解すると共に、行動や小さな動作、表情から見て感じ取れるその方の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用様、ご家族様には日頃の関わりの中で思いや意見を聞きいて介護計画に反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行なっている。	利用者や家族の要望を聞きとり、介護計画に反映できるように心がけている。職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行なっている。その都度、医師や看護師の助言を得て利用者の状況に応じて計画書を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様ごとの個別ノートに日々の身体的状況及び暮らしの様子やご本人の言動等を記録している。またいつでも全職員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の状況に応じて必要なサービスを提供できるよう柔軟に対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域での暮らしを続けられるよう、運営推進会議を通じて、地域行政関係者や民生委員との意見交換等の機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、利用者様やご家族様が希望される医療機関にて受診できることを説明している。	入居時に今までのかかりつけ医を希望すれば継続しているが、緊急に対応が可能なため、多数の人が当施設の担当医師に変更している。他科受診の際にはきちんと情報提供書を渡し、適切な治療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様への支援方法に関する情報を医療機関に提供して早期に退院できるよう努めている。また可能な限り職員が見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様やご家族様の意向を踏まえ、医師と職員が連携を取りながら安心して納得して最期を迎えられるよう、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	入居時と病状変化の都度、利用者や家族に病状の説明と施設でできる事を説明し、納得された上で医師と職員が連携を取りながら、安心して最期を迎えられるように支援している。職員も終末期についてはマニュアルなどをみて研修は受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着するまでの応急処置や準備すべきことについて、ケースの想定をしながら勉強会や話し合いを繰り返し行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得ながら定期的避難訓練を実施している。防災設備及び避難経路の確認を定期的に行なっている。	年に2回(春・秋)に実施している。昼中・夜間を想定で避難訓練をおこない、実際に駐車場まで誘導を行った。備蓄品としては、日用品・食品・水など2週間分が保管されている。	地域の協力が得られるよう働きかけを行い、消防署の助言を参考にいろいろな場面を想定した訓練の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時、まず利用者様の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心掛け、利用者様自身で意思決定してもらいやすい声掛けに努めている。	職員は、接遇やマナーについては社内研修を行い、利用者のプライバシーや尊厳の重要性は認識している。利用者の気持ちを確認しながら、目立たずさりげない言葉かけで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせた声掛けや、意思表示が困難な方の表情からの読み取り等に努め、職員の意見を押し付けないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、利用者様のペースを大切にしながらそれに合わせた対応を心掛けている。その日の様子を見ながら利用者様のご希望を聞いたり相談しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の生活スタイルを把握し、その方の意思を尊重しながらみだしなみやおしゃれができるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に畑で栽培した野菜等の食材を使ってご希望を伺いながら調理をし、食事を楽しめるよう努めている。	毎日の食材は、業者より届いているが、職員と共に利用者が手伝う事がある。畑で栽培した野菜は希望を聞いて食事の中で調理し、食べている。食事レクリエーションとして好きなものを作ったりしてみんなで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせた食事量・硬さ・大きさを調整し、栄養バランスも考慮しながら食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声掛けしながら見守り、できない方には毎食後の口腔ケアを行ない嚥下障害による肺炎の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の自尊心に考慮し、身体状態に応じて介助することでトイレでの排泄ができるような支援を心がけている。	排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握し、夜間も声掛けトイレ誘導している。その成果もあり、紙おむつから布パンツに戻った。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の徹底や適度な運動をすることで便秘防止に取り組んでいる。水分補給の重要性について勉強会等で職員間の意識を共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に応じて、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた入浴介助を行なっている。	利用者の体調に合わせて週に2回は入浴介助をおこなっている。希望があれば利用者の好みの入浴剤を入れて、ゆったりと入浴してもらっている。入浴を拒む人には声かけを行い、納得してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを整えるため、できる限り日中の活動を促している。また一人ひとりの体調や意思を考慮してゆっくり休息したり、安心してよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬記録を全職員が常に確認できるようにし、看護職員との連携を取りながら服用できるようにしている。また服薬の勉強会も行なって職員のスキルアップも図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや畑仕事、水やり収穫等の仕事を利用者様にお渡し、感謝の気持ちを伝えることで一人ひとりのやりがいを大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に近隣を散歩するなどして短時間でも戸外に外出できるよう努めながら地域の方々との交流も図っている。またご家族様にも協力していただき戸外に外出する機会を増やすよう努めている。	定期的に、近隣を散歩に出かけている。また、外気浴や日光浴のために、畑の水遣りやおやつを外で食べるよう、季節を感じられるように努めている。また、利用者の希望にそった外出支援ができるよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことについては、利用者様のご家族様毎の意向に沿って、相談しながら利用者様の安心や希望に応えられるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人に手紙を書くことをこちらから声掛けしたり、利用者様の希望に応じて日常的に連絡をとることができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアの飾り付けや家具の配置は、できる限り利用者様と一緒に考えたり、季節感のあるものにする事で家庭的な雰囲気をつくるよう努めている。	共有フロアの壁には壁飾りや作品を掲示している。季節感を感じたり、家庭的な雰囲気を作るように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのソファやダイニングテーブル、椅子の配置等に配慮して、利用者様が落ち着いてくつろげるスペースづくりに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様との写真や使い慣れた家具持ち込まれることで、利用者様にとって居心地が良い居室にさせていただくよう努めている。	自宅から使っていた家具を持ち込んだり、家族の写真を飾っている。毎日職員が清掃し、整理整頓されている。昼間は、自室に戻り昼寝をされる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に合わせた安全で安心できる環境努めている。状況が変わったり問題が生じた場合は、随時職員間で話し合い、その方の不安を取り除くようにしている。		